

飼料用米の生産から肉用鶏への給餌にいたる 課題 & 対策

1. 多収品種の種子の調達
2. 土作り: 耕畜連携 & 循環型農業
3. 飼料用米の保管・物流
4. 検査のあり方
5. 助成金のあり方



木徳神糧株式会社

(米穀卸会社)

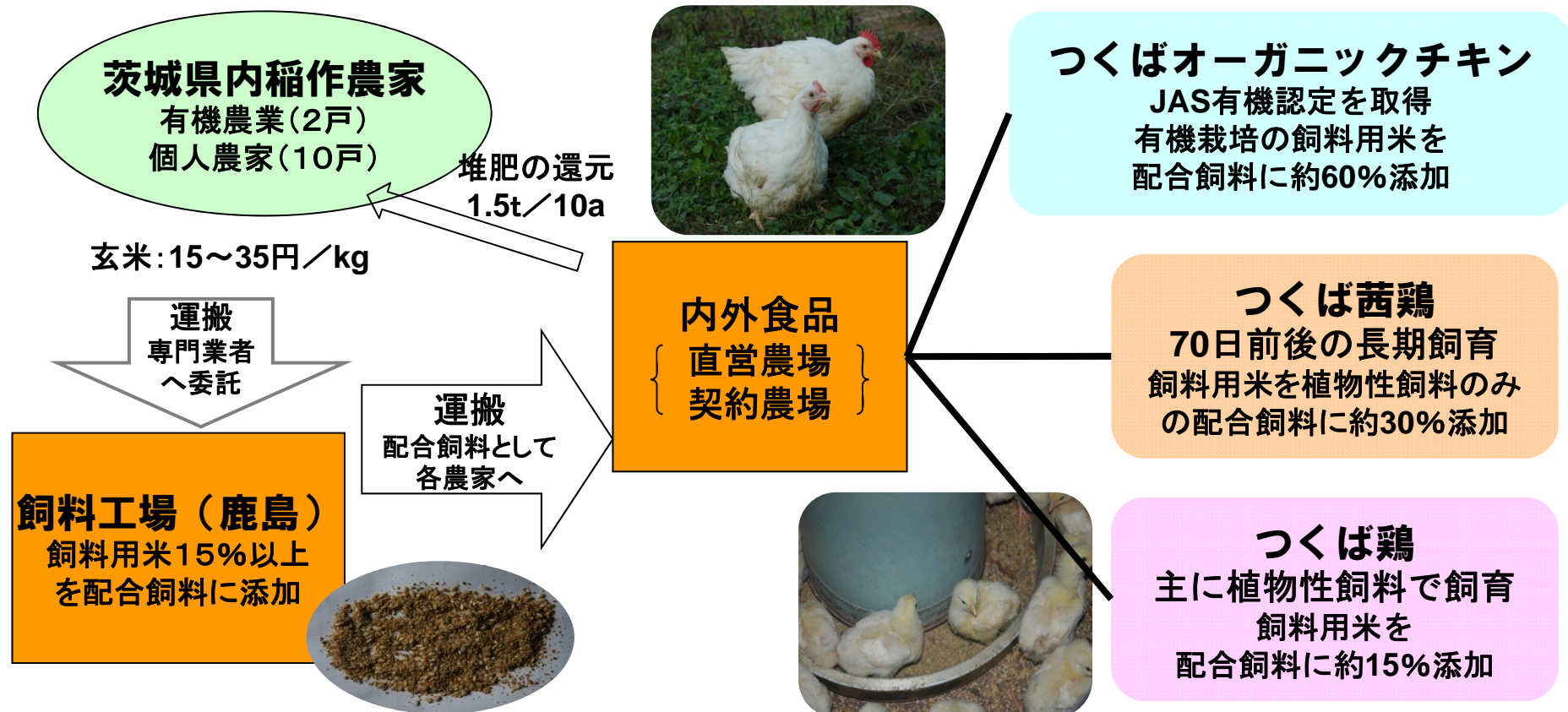


内外食品株式会社 (ブロイラー生産・加工・販売会社)

グループセールス事業部長 木村友二郎

飼料用米の利用の取組<先進事例(木徳神糧(株)(東京都)と内外食品(株)(千葉県))>

- 循環型農業に取り組みによるトレーサビリティの実現や飼料自給率向上を目的として、米卸業者である木徳神糧株式会社と、グループ会社である内外食品株式会社（傘下の肉用鶏農場）が連携して平成21年度から飼料用米の取組を開始した。
- 肉用鶏農場で使用する飼料用米のうち、茨城県内で作付けしているものは平成26年は約150ha、約900tに上る。平成26年度からは茨城県産に加え、千葉県や栃木県産の飼料用米も利用することになり、今後も取扱量の拡大を予定している。
- 自社専用の配合飼料に飼料用米を15～60%添加している。
- 生産された鶏肉は「つくばオーガニックチキン」や「つくば茜鶏」、「つくば鶏」として販売している。



1. 飼料用多収品種の種子調達

* 絶対量が不足

- 希望する量の調達は難しい
- 正規ルートでの調達が条件
- 種苗法のカベがある
- 主食用品種での代用が大勢を占める現状

* 多収品種の開発：米の用途拡大のキーポイント

* 多収品種の採種農家はどこにいるのか？

2. 土作り：耕畜連携 & 循環型農業

* 畜糞堆肥の集荷、保管

- 環境への配慮(水質汚染防止、臭い対策)が絶対条件
 - ※ 保管場所の確保が至難
- 畜糞発生場所と飼料用米耕作地の距離
- 遠距離輸送は合わない

* 行政主導の地域ぐるみでの

循環型耕畜連携インフラ作りが必要

事例 畜糞堆肥センター

3. 飼料用米の保管・物流

* 低コストでの保管・流通が必須

- フレコン詰め(500kg~1トン)での集荷
- 倉庫保管料を最小化するためには…
農場での自家配合 or 野積み?
- 配合飼料工場の受け入れ態勢

問題点

* 輸入原料前提：工場が海を向いている！

- 価格：トウモロコシ > 飼料用米 が絶対条件

4. 検査のあり方

* 数量検査だけでよい？

- 生産者・需要者の事前の相対契約
- 品質は相互の信頼の問題

5. 助成金のあり方

* 現状：米耕種農家への助成

- 飼料用米増産にはつながるが飼料用米消費は？
- 飼料メーカー・畜産生産者への助成措置必要

ご清聴いただきありがとうございました。

これからも日本の食と暮らしを支えます。

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/index.phpk>

お米と。あなたと。

 **木徳神糧**